

## 『ライフデザイン学研究』第15号発行に寄せて

人間環境デザイン学科 高橋良至

ライフデザイン学は、2005年のライフデザイン学部開設以来、文理融合の新たな学問として進展してきました。大学は教育の場であり、また研究の場でもあります。研究における新たな知見を教育に投影させて行くことが、大学における教育には求められており、特にライフデザイン学のような実践的な学問においては、いかに最新の研究成果を教育に還元していくかが、重要であると考えます。

この『ライフデザイン学研究』第15号には、論文16本、研究報告7本、研究ノート4本の最新の研究成果が掲載されています。それらの網羅する分野はバリエーションに富み、学科・専攻の名称である、「生活支援」、「子ども支援」、「健康スポーツ」、「人間環境デザイン」の枠に留まらず、欧州やアジアにおける研究、英語で記述された論文なども含まれており、本学の国際化への取り組みや、ライフデザイン学の持つ多様性と呼応していると言えるでしょう。著者の皆様の研究課題への真摯な取り組みや提案が、このように紀要としてまとめられたことを喜ばしく思います。また、掲載された論文等に対して忌憚のない評価を頂き、議論を深めることは、正しく研究を進めていく上で、大変意義深いことであると考えます。

しかしながら、ライフデザイン学部は2023年度に募集停止となる予定です。ライフデザイン学の目指す、ダイバーシティや、ユニバーサルデザインといった考え方は、東京2020年オリンピック・パラリンピック大会を一つの契機として、ようやく社会に広く認知され始めたところであり、まさにこれからその意義が注目され、成果が役立つところでした。開設以来16年を経た現在であっても、学部の掲げる理念が持つ先進性は、いささかも失われておらず、残念であると言わざるを得ません。学部開設は2005年ですが、人間環境デザイン学科が1年後に開設したため、全ての学科専攻が揃ったのは2006年でした。その頃から教鞭を執られ、学部学科の運営に携わってこられた先生方も、次第に少なくなって参りました。今年度も3名の先生が、ご退任の挨拶を寄稿下さっております。ご退職される先生方には感謝の念をもって、今後のご健勝をお祈り致します。

最後に、紀要編集委員の先生方のご献身と、著者の皆様のご協力によって本紀要を発行することができましたことに、感謝を申し上げます。